

商店街のにぎわい創出に一役

大綱引き大会2010

2年ぶり復活！
農林高校としては最後の大会



大綱引き大会2010（伊藤公夫・大会実行委員長）が6月19日、鷹巣駅前通り、銀座通りで生徒や市民ら約320人が参加して開かれ、歩行者天国となった商店街では、若者の歓声が響きわたりました。

同大会は、今回が9回目の開催。平成13年から県立鷹巣農林高校（佐藤英樹校長）の生徒会（岩本大幸生徒会長）が中心となり、「地域の活性化を若者の力で」をスローガンに始まったものです。

昨年は、創立100周年記念行事があったため、開催が見送られましたが「地域の商店街の活性化のためには実施を」農林高校として最後の大会を実施したい」などの声にこたえて開催が計画されました。また、鷹巣農林高校のほか、来年統合となる鷹巣高校や合川高校、米内沢高校も出場したほか、JA鷹巣町や商工会会員らも出場しました。

大会は、男子16チーム、女子5チームが参加。男子は4ブロックに分かれて予選リーグを実施。各ブロック1位が決勝トーナメントに進み優勝を競います。また、女子は総当たりのリーグ戦で順位を競います。

開会式で、伊藤実行委員長は「郊外にショッピングセンターができ、北秋中央病院も市民病院に移り、商店街は寂しくなったと言われる。皆さんのような若い

力が集まると地域全体が元気になる。若い人たちのアイデアもどんどん取り入れて、新しい商店街のかたちを目指したい」などとあいさつ。

岩本生徒会長は「たくさんの人たちの協力のおかげで、開催を迎えることができた。鷹巣農林高校としては、最後の大会となるが、今日一日ここに活気あふれる商店街をつくっていきましょう」と意気込みを語りました。

熱戦の連続に
市民からも大きな声援

男子予選リーグでは、高校生チームが社会人のチームに勝利するなど多いに盛り上がりました。決勝トーナメントには、農林高PTA、農林高農業科学科A、JA鷹巣町、農林高森林環境科Aが勝ち上がりました。また、女子リーグ戦では、JA鷹巣町が高校生チームに全勝し、優勝を飾りました。

決勝トーナメントでは、JA鷹巣町と農林高PTA



▲市民らも生徒と一緒に応援

美味しいお餅と

あでやかな踊りでにぎわう

第26回ふるさと踊りと餅つきまつり

第26回ふるさと踊りと餅つきまつり（和田テエ子実行委員長）が6月6日、鷹ノ巣駅前・銀座通りを会場に開催され、盛りだくさんの催し物にたくさんの方が訪れてにぎわいました。



◀みんなで伸ばせ「餅の引き伸ばし大会」

このイベントは、昭和59年、鷹巣町婦人団体連絡協議会（中嶋喜代会長）が米の消費拡大と地域の活性化をねらいに鷹巣町婦人会フェスティバルとして実施した「通り踊り」や米代児童公園での餅の販売がはじまり。翌年から商工会やJA、各地区婦人会などの協力を得て現在の名称で続いているものです。

この日は、晴天で絶好のお祭り日和。駅前通り、銀座通りが歩行者天国となり、餅の販売や、フリーマーケットなどに各団体の出店したほか、綴子上町太鼓保存会の獅子踊り、すずめ踊り、縄文踊り、スプリング☆フォアのライブ、金沢恵美子一行による民謡・歌謡ショーが見物客を楽しませました。特に餅の販売会場では、お焼きやごま餅、笹餅など種類も豊富で彩りも豊か、午前10時の開店と同時に、飛ぶように売れていました。

綴子太鼓の先導で 14団体が美しい踊りを披露

餅の引き伸ばし大会では、東西に分かれて餅を伸ばし長さを競いました。東軍が44メートル、西軍が44メートル25センチで、わずかに西軍が長く勝利しました。その後、伸ばした餅にあんこを入れてもらい、おしるこにして味わいました。



あでやかな踊りで
観客を魅了

開会セレモニーでは、中嶋洋子実行委員長が「このような楽しいイベントができるのも、暖かい拍手、喜んでもらえる市民の皆さんの応援があるからです。みんなで元気な北秋田市をつくっていきましょう」と市民らに呼びかけました。

津谷市長は「女性の方々が先頭に立って頑張る、男性の方々が縁の下で力持ちとなり、みんなが力を合わせて、25年以上続く祭りを盛り上げてきた。思い出に残る楽しい一日となるように願っています」などと祝辞を述べました。

セレモニーの後、始まったふるさと踊りは、綴子太鼓が豪快な音とともに行列を先導。各地区婦人会など14団体から参加した踊り手らが、しなやかで美しい踊りを披露。大八車からは紅白の餅が振舞われる華やかな行列が始まりました。

治道の観衆からは、子ども太鼓のかわいい太鼓演奏や着物姿もあでやかな踊り手に大きな拍手を送っていました。